広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

八女の職人とつくる癒やしのオブジェ

森音広夢　福岡／からくり人形師

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催・レクサス）は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家／東京大学教授）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

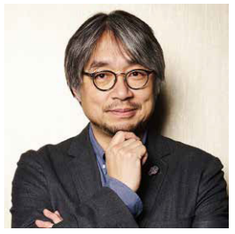
1月17日、プレゼンテーションにて

プレゼンテーションの様子

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI～新しい匠、新しい暮らし～」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。福岡県選出の匠、からくり人形師森音広夢（HIROMU MOULINETTE）さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

プロダクトの説明をする森音さん


スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

伝統工芸は宝 魅了され、移住

木のぬくもりを感じる10チセンの四方の小さな箱。それを開くと現れるのは、卵形のかわいらしいオブジェ「TAMAGOSAMA（たまごさま）」だ。穏やかなアルカイックスマイルを浮かべ、厳かな雰囲気を醸し出している。

作者は京都府出身で、現在は福岡県八女市に工房を構えるからくり人形師、森音さん。今回「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」に参加するに当たり、森音さんは地元八女市の職人と共同で制作することをコンセプトに掲げた。

八女市は、和紙やちょうちんをはじめ多くの伝統工芸が今なお息づくまち。中でも八女福島仏壇（まきえ）の制作には、彫刻や蒔絵（まきえ）など多数の伝統技法が継承されている。さまざまな土地に移り住んで創作活動を続けてきた森音さんは、その伝統技法に魅了され、八女市を「宝の山」と表現。「いつか地元の職人と一緒にモノづくりをしたいと願っていました」

伝統工芸が息づく八女市のまち並み

今回のプロジェクトでは、全体の基本デザインを森音さんが担当。仏壇の蒔絵、木工、金具、こまのろくろひきの職人が関わることになった。念願だった地元職人との共同制作。しかしやがて困難が立ちはだかる。「職人によってこだわる部分が違う。『これが普通だ』という基準をそれぞれが持っていたのです」

森音さんにとっても職人にとっても、共同制作は初めての経験。思ったようにはいかないと痛感し、プロジェクトをうまく進めるためには「ゴールや共同制作の価値を、事前に全員で共有するべきだった」と気付かされたという。

完成したプロダクト

完成プロダクト「TAMAGOSAMA」

職人の技術を広める役割も

1月に都内で開かれた同プロジェクトのプレゼンテーションで、森音さんは大勢の参加者を前に、関わった職人一人一人の名前と顔写真を紹介した。「職人の紹介は、今回のプロジェクトで私が絶対やりたかったことの一つ」と語る。「普段は裏方に徹する職人に、皆さんは表舞台に出るべき方々だと伝えたかった」

同プレゼンでは、TAMAGOSAMAの独特な〝癒やしの風貌〟がサポートメンバーから高い評価を得た。「個性が強いから、キャラクターとして成立していて面白いと言っていただいた」と森音さん。サポートメンバーの下川氏からは「オブジェにロゴを入れれば、ブランドや自治体とコラボレーションできる」との提案もあり「このプロジェクトに参加したことで、これからも継続してつくっていく自信を得られました」と話す。

下川氏とのエリア・コンサルティング

制作過程のプロダクト

「私はあちこち転々としてきた根無し草。でも今回プロジェクトをやり遂げ、八女市の一部になれた気がする」と森音さんは感じている。次はどんな作品をつくり出すのか、森音さんと職人たちによる共同制作へのチャレンジは、始まったばかりだ。

森音さんが制作に使うのは自作のナイフのみ

森音広夢
福岡／からくり人形師

1975年京都府生まれ。現在福岡県八女市で工房、Atelier66を構える。銀座松屋、京都ハイアットリージェンシーホテルなどで個展を行う。からくり人形師の傍ら、仏師、極彩美術工芸家、翻訳家、スポーツジャーナリストとしても活動。世界最小のテディーベアー(0.8mm)のギネス記録を保持する。Carver's comp準グランプリなど多数受賞。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT